

3 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4



比貴鑑卷之二

紀行第二 此卷は才一のものすゑ

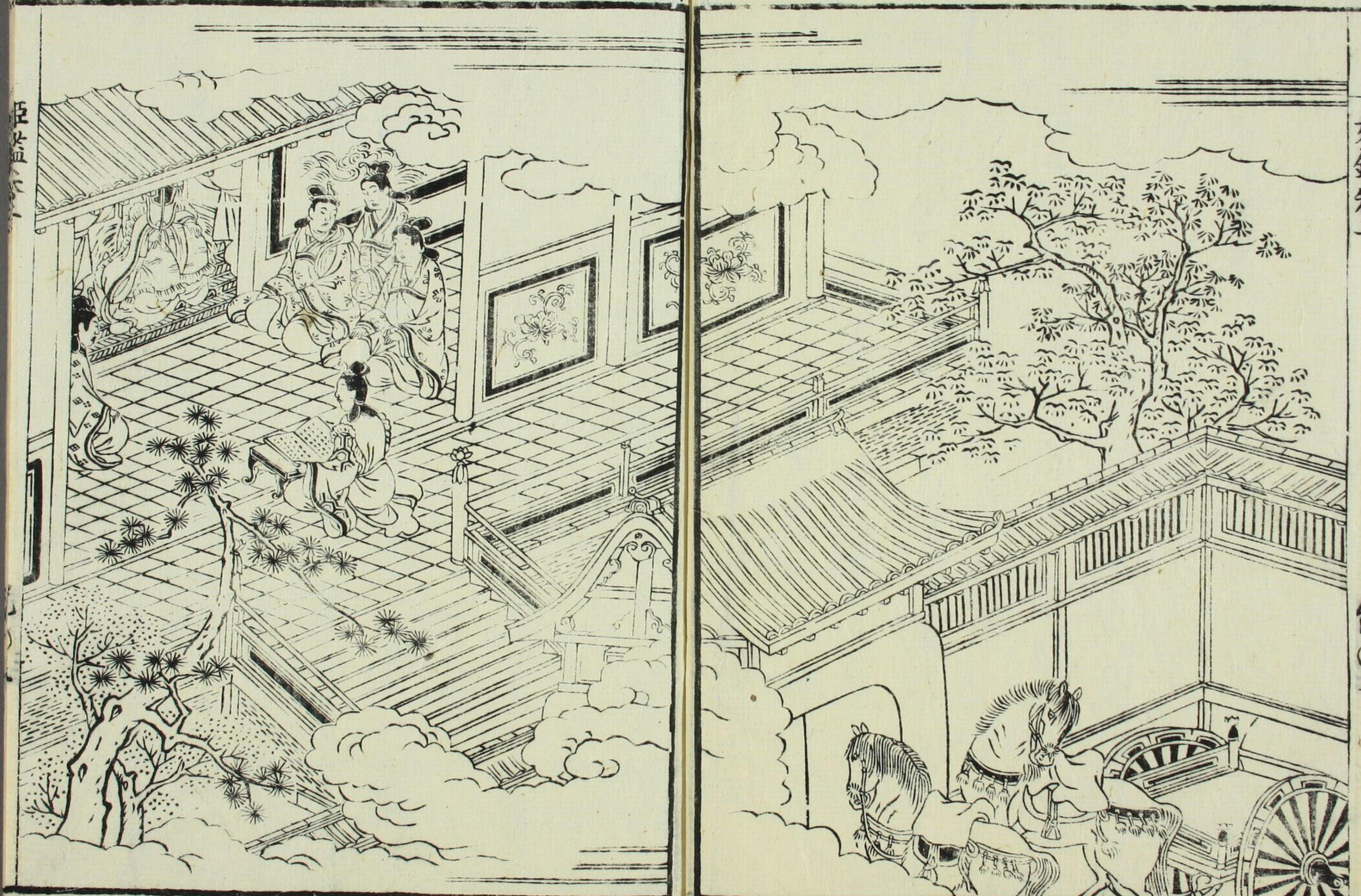


唐の柳仲郎が母韓氏ハ相國韓体れすゑとてちるのじと  
すりくら御氏の妻とやうてあどちこじかゆけとくわくに  
づきやくてもうじそりとれ官家もかほとして是よなへ  
レ御氏よりてもうじそりとれ官家もかほとくもその  
にひくまでうじそりとれ官家もかほとくもその  
やうとあかこむひがどとめくにれ里くらきうけと金器  
りうえくおもよみととて竹のたういとけいくく青  
女房二人そひゆくぞうりを仲郎がびよのがれすゑ

かくもあらぬ内に若參夷連鷹臘がどんとおひきり  
りとつと合せまつておこなつてあるからうがふれすうわま  
かくもあらとたとめんとありじまとゆくわよがもくとてや  
すよややまとおなづけのめぐらばの勤者とくとく  
しきの小てあまたねうどんとそあくまくくらべ  
と輝氏いぬこれ意をうこやくあよみのめのようくびられ  
ふあくわうごうげつとくとく

宋の左寧左卿の母あらとお孫のあらきるくとよてひ  
しも家のやーるはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく  
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

たうひどうなむをもあくまき食へ寧相のあらきる  
もさくもさくばげるとくらうとくらうとくらう  
寧相あらきるめでてむれなすじくらうやとくの  
くらうあらきるめでてむれなすじくらうやとくの  
まくとを寧の母いあくとぞとやれをまつひあくねの  
ひあくねうじの美術とくらうとくらうとくらうとく  
くらうとくらうとくらうとくらうとくらうとくらう  
ひあくねうじの美術とくらうとくらうとくらうとく



宗の三姫子の母侯夫人に厚の酒うてとせん人なりうりや  
ちひらのはあらまゆよ女多へわらあぞ此よ六明燭とくらひ  
あらまくいばしてからうるうれば國のアモもそねよハ  
照大章とくらひてかくびーとくらひてかくみ  
あきせの女也うらうらとくらひてかくみとくらひてかくみ  
あらまくいふりそ中あま相馬の妻とありそやの又母よほり  
て食のうまれありうらよとくらひくらひのくらひ  
きくそ中とま人のりぬめくわくめくわくとくらひ  
うらまくいふとま人よくあどくらひてくらひのくらひ  
うらまくいふとま人よくあどくらひてくらひのくらひ  
をゆうれん御がくれよがくとくらひくらひのくらひ  
かくはあくも、くらひくらひのくらひのくらひのくらひ  
まくやくかくはあくも、くらひくらひのくらひのくらひ  
らくらひのくらひのくらひのくらひのくらひのくらひ  
あくすあくす母あくじくあくじくあくじくあくじく  
へうくすへうくす母あくじくあくじくあくじくあくじく  
まくすあくすとくらひのくらひのくらひのくらひのくらひ  
えくすあくすのあくじくあくじくあくじくあくじく  
じくじくじくじくじくじくじくじくじくじくじく  
たくたくたくたくたくたくたくたくたくたくたくたく

うをかへて文のうづかみをうつりなりがれと  
 がわくうづかくはあらゆるそなへからうふ  
 舞れ、さへもひそかに秀すこゆ、まれりはまく  
 えふるはあらゆるそなへのうづかみをうつり  
 まゐれとおこむやうのうづかみをうつり  
 くよあゆまきをうつり、さへもひそかに秀す  
 じとくうづかみをうつり、おこむやうのうづ  
 かみをうつり、ひくいもとくもとくもとくも  
 せとせとせとせとせとせとせとせとせとせ  
 そりとせとせとせとせとせとせとせとせとせ  
 やうとせとせとせとせとせとせとせとせとせ  
 とれとよりと二程のうづかみをうつり、あ  
 あひのうづかみをうつりと成人のねうづか  
 うとせとせとせとせとせとせとせとせとせ  
 程とれとよりと二程のうづかみをうつりと  
 せの儒教とよりと明道先生作川先生のうづ  
 うとれとよりと二程のうづかみをうつりと  
 みとれとよりと二程のうづかみをうつりと  
 みとれとよりと二程のうづかみをうつりと  
 みとれとよりと二程のうづかみをうつりと

くものへかりる

宗の秋緒を壬寅歳が母の諱氏子のまへ先とくゆくうりを  
もいきううれつとくかくめどおさしるのよくつゝへち  
秋緒がいわからじうりて風をすみゆひかくわくらね  
ひよそもうかざれはよきじうめやんとおきうるひ  
ゆきとさづか川の程をせりてうら源とてむすが  
おとす原ようはすゑいまうそいくまようりとあらすじ  
くわくわくたゞしてもしゆうじうばあくすじ  
とくまげされぬよくびとを靖じましめとぬりて  
跡よほくまとうりうれむほよ及半とげくしてちらく  
くわくわくまうり旅とくじゆうひなくおとくしてせとく  
さくやとまとまとまんねばまくらはくぶくまくらにあく  
くらでせようべとくりわ縁くもんまつやくまく母戒日う  
ちきのまがとりとくぶとくぐくとくぐくとくつとく  
てくうかとくまうんとくあてもくぢりうりとくひくまを  
くくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
宮達のぞとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
くくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

と服とくまつもはきとくとけんみがふだまく  
はありてやをせよすゞしも鐵もくりふ時のとど考和  
皇あがりのうたん后え人の際うてとびを  
きひそ曹大娘女城セ章とほり女城とめあれまわり  
じくいまの女乃うとどそりよりそれりとくの劉向と  
アモのやうとすとくわかくくみのわととびひて列女傳ま  
まえひりとすも曹大娘の義志とみのりとうじくうこに  
きのものか毛とあらわうとくきりと曹大娘ちうりて  
のらもとまうす丁氏のかうりあつもくううねくう寒の

教ナ六よび丁氏も書大娘が質つまうるも  
やあうけよしてま唐の陳邈が妻鄭氏ハ父りてたまて  
ゆれぬとがどひよ聖賢の絶えずくまうるあととす  
あひよ必ひびくつむとひくとくん半と称ひま  
ヨアシカのじとあ永生と不滅の尼とくわくと鄭  
氏のうとくしてかくゆくつまうるの尼とくわくとれ  
ゆをへよびうけうとくとくわくとればとれのたまふと  
書十八章とくまうすひ曹大娘が女城のよりとづき章れ  
づくひりの名とくつて女名とくつかつまう義文とく  
かくくわくわくとくわくとくわくと女城とくり小女のほく

てくらをあふとぞせよのうううひうますとすのゆと  
仰りうう、唐の長孫皇后の女則十卷ありえ師在う妻れ  
劉氏う女儀一卷あり尚みの宋氏う女禮譜十卷も王唐  
う妻の楊氏う女戒一卷もともて明細よつて后妃のう  
まうぬうとあがうり

ヨリヨリよじては春れる惠心院の傍教源信とつひさくはう  
くとなくとも傳なり又ハト教のうおのせは傳承する  
夫わふ萬本のんなりけりうえよももかとくもまうの母  
父のつひとくからくらでらごとくの意義傳ゆつあて  
際ようへかり奉仕人よくくらと年十六にて内八傳  
よ同者とくとくうりういがの度にて傍教よなをうりう  
うそねがうの母うたうをもひくをりぬ傍教へじ  
きぬうつうれどちうもふもばだくもよぐりうらと  
ねあうはうりぬどもよ伝事へけう事跡も傳せうり布  
被ふどちりくえてうればううううううううううう  
えううううううううううううううううううううう  
れううううううううううううううううううううう  
うううううううううううううううううううううう  
ううううううううううううううううううううう

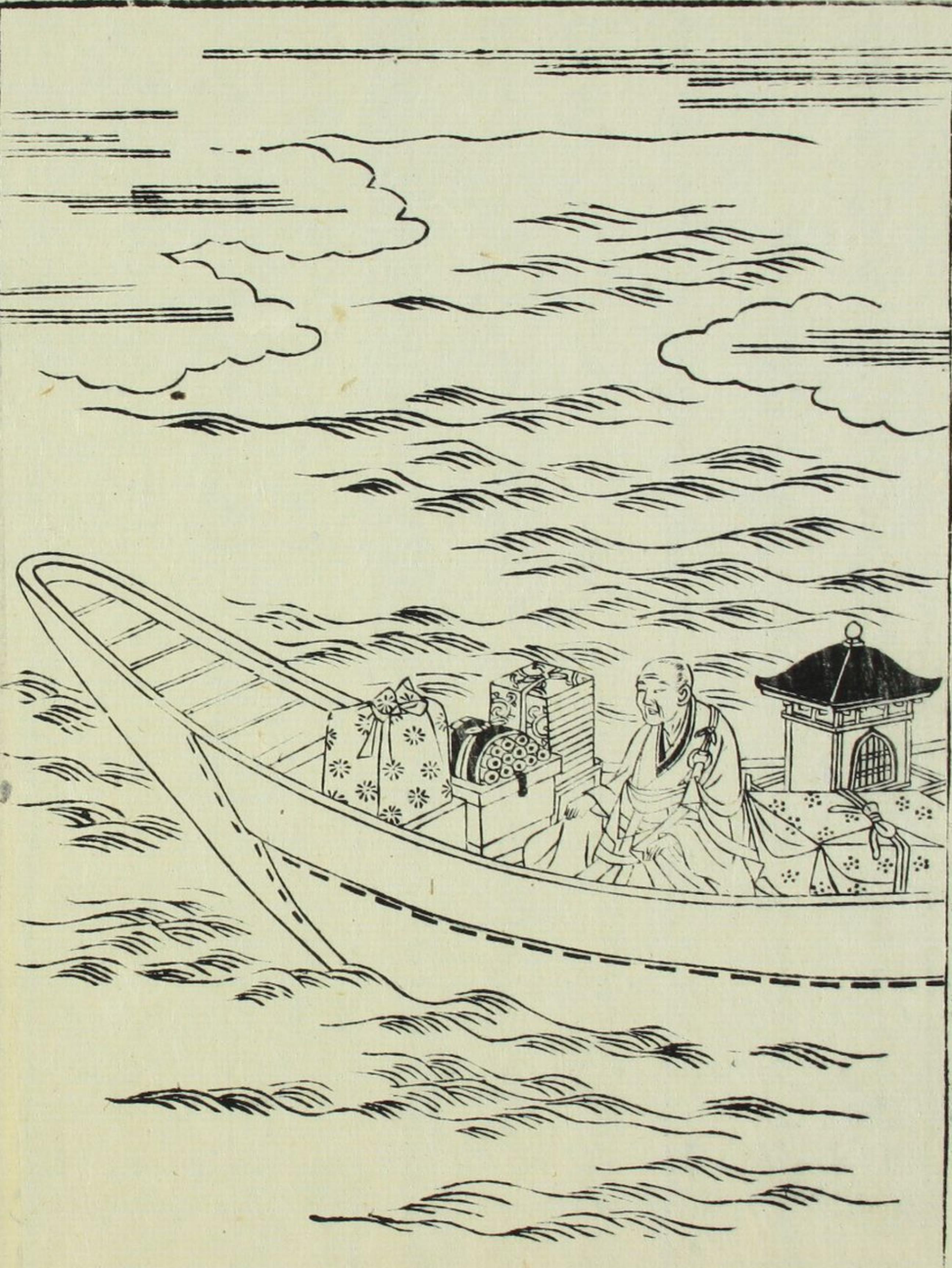
久事などゝ人となりひてことわへふねうち附よたなへ  
されど年ごろはよきありしてすゞつもとまゝくじけ承る  
素とくらゆれ流すこゝとひのちやじくらうもぐれなり  
信承られまゝてありたひよくぬく有利の根とくらうきて  
信承られまゝてありたひよくぬく有利の根とくらうきて  
て此と信承られんがむうりする年のとくらう様川よりうる  
ともやかのとくらうすあざれど、づきのなまもそのふれまと  
つまくはまくさんとぎふるがくくびきアヒラ  
キヨトといふの田穀陶侃う母のふくわむらくらう  
ひくふくもの田門奇をうけりてよわうてはとりとくの

さくわくとくらゆのうへん船々くあくとくまればよう  
たゞよだりそむぬえのすゑよ寧うりありけりあくとが  
ひそめたもとくくくくくくくくくくくくくくくくく  
やありすくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
じよ様とくくくくくくくくくくくくくくくくく  
やれどくはれどくはれどくはれどくはれどくはれど  
くはれどくはれどくはれどくはれどくはれどくはれど  
くはれどくはれどくはれどくはれどくはれどくはれど  
くはれどくはれどくはれどくはれどくはれどくはれど

てといひがまくそひへるゆひの方へとくるかと云ふはけり  
そじよとおもひ我あらとおもひてがくへりゆふかふうきを  
かうへぬとおもひてすむわをあひゆとおもひつらより  
まくくうううううううううううううううううううう  
人方せのみまへおうへぬとおもひつらより  
まくくううううううううううううううううううう  
らびよ仏像がうとおもひくとおもひくとおもひくと  
のいきとけとけとけとけとけとけとけとけとけと  
あくゆのたうとすとすとすとすとすとすとすと  
よどく賈とくしてきの足母と名書すとおとどあく人のせ  
口アラリジトモキモト西川に若者をけりに事ありとんや  
文母とてよのなりとしのうのちよもがまくくひまくと  
えんやものれもうとひくとひくとひくとひくと  
ともあれあくねじとひくとひくとひくとひくと  
棄カニヨリの奉そ天地をあくべのひとあくまくま  
かくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま  
勦あらじとひくとひくとひくとひくとひくと  
原よとくの天子と天子と天子と天子と天子と天子と  
ひどくのよとくの天子と天子と天子と天子と天子と  
おうがだ文母とおうがだ天子と天子と天子と天子と

をとくよひづりとれあくやなまくんをへ天性より  
ふるうり、自とまこ船とあての又舟と角もへもくと  
ふるのよもべとづり

ひづりとすちよは室とくは跡ありその跡お身やもひよせ  
てとくじゆうとくとくえですがと安樂晴明よのりとふ膳  
明とく跡のよひすびづりとくあようくとくあくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
すともかおがく魂をぐくほのあよきとくとくとくとくと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく





金とくらむと後をかづ小刀てやまうつとくれど  
の城下義家との日めけにあてびくらうめりてのうが  
もせひるをのきよみくらうおひとやうしんばのが  
たがくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
かとくらうびくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
やとくらうかれおばだむはよくらうよじとあ  
ときどくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
してゆきゆきとくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
されひくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
くらうよじとあうがくとてれあうとじくま

くらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
じくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
様様か入道そ智うひくらう時れとなよくらうの  
てぬくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
えくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
建くらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
てうくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
ナ一軍よくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
はくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
庫よくらうよじとあうがくとてれあうとじくま  
くらうよじとあうがくとてれあうとじくま



やけりと母のちへのまつりとよひて  
相模まかまくの清れよ事とく食事のまわり  
その妻もとものしまれがりりうすぐれくらう  
人なりうどもおれきりけりよくれり又益學す  
毛あくゝと家のぶみ業やるもどりよまがみを  
さよりうあはるはの社まわりけたの坂くらよひ  
てあらまう牛よ儀くつもろくわとけ一弓とうけら  
ちりゆくかくと儀のふにまづくじりやくとまくか  
なとゆくとくとばんの各そくもちくとくぬくわ  
とそりあきんゆくもあきねば半ひとあきねゆく半ひ

いよよなりてあえがりぬくまくわくまくもくも  
里のひとひ興りありてだむの牛のくらよまち  
病とうもがく半とくとくとくひたのむく半  
引うそきりらうの日とくとくひく人のもくよ  
わくうそとくとくひくぬくとくじきを余とくう  
きの母のちくとくひくとくひくとくひくとく  
むくとくとくひ強威とくとく圓八列とくとくの一筋あ  
ゆくいれくらうものとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
一母とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

楚の項王はちくに大本と称ねまつてゐるが、あともち  
ちくが鳥江のへやままで余どもひ張良はそのすくの  
こゑをじうどもとむと成惟幕の用よどめ功とお望  
みがよしむりて、すれどもとがんきゆのまとすら而  
らうよあくは民ねい威ありてゐけび勝とて人をあ  
らざるをまつてれりかくちくとあわせあぐ成ゆと  
一と志よぬとのめありて歎すくあくよあどりと軍は  
略と綱縛て敵とすばくきとがんきとよひハ云  
をとてくじくとてのまかててくまづのされ後急う  
ハ云くうひもじ難よまびくと安處の武勇もとてくま  
ゆふがんとすくとくわくをあんまくとくと川桔弯  
桔のあきびとあくびくとくとくの軍書とと軍法とよ  
くびくと小船鉄良略の勇士となりてゆくが、あれお  
りぐくの力じつと巴やまぶさとすくゆくとがんと  
ゆくとくとくの轟むとあくたとくとくとくと  
た理よらく急毛くさのひのひのひのひのひのひのひ  
智とあくとあくとあくとあくとあくとあくとあくとあく  
とあくとあくとあくとあくとあくとあくとあくとあく

古今賢女傳

目錄

緹常

列女傳

曹娥

後漢書

楊杏

九倫書

龐氏女

古今列女傳

趙娥

後漢書

王舜

晉書列女傳

朱娥

古今列女傳

老婦人嫁 日下紀

模我遠嫁 因上

吉福宗女 猶日下紀

安良妻 日下後述

桂紫花女 俊賴體狀

附衣縫金毛 漢日下後述

比賣盤紀行卷第十三

紀行第三

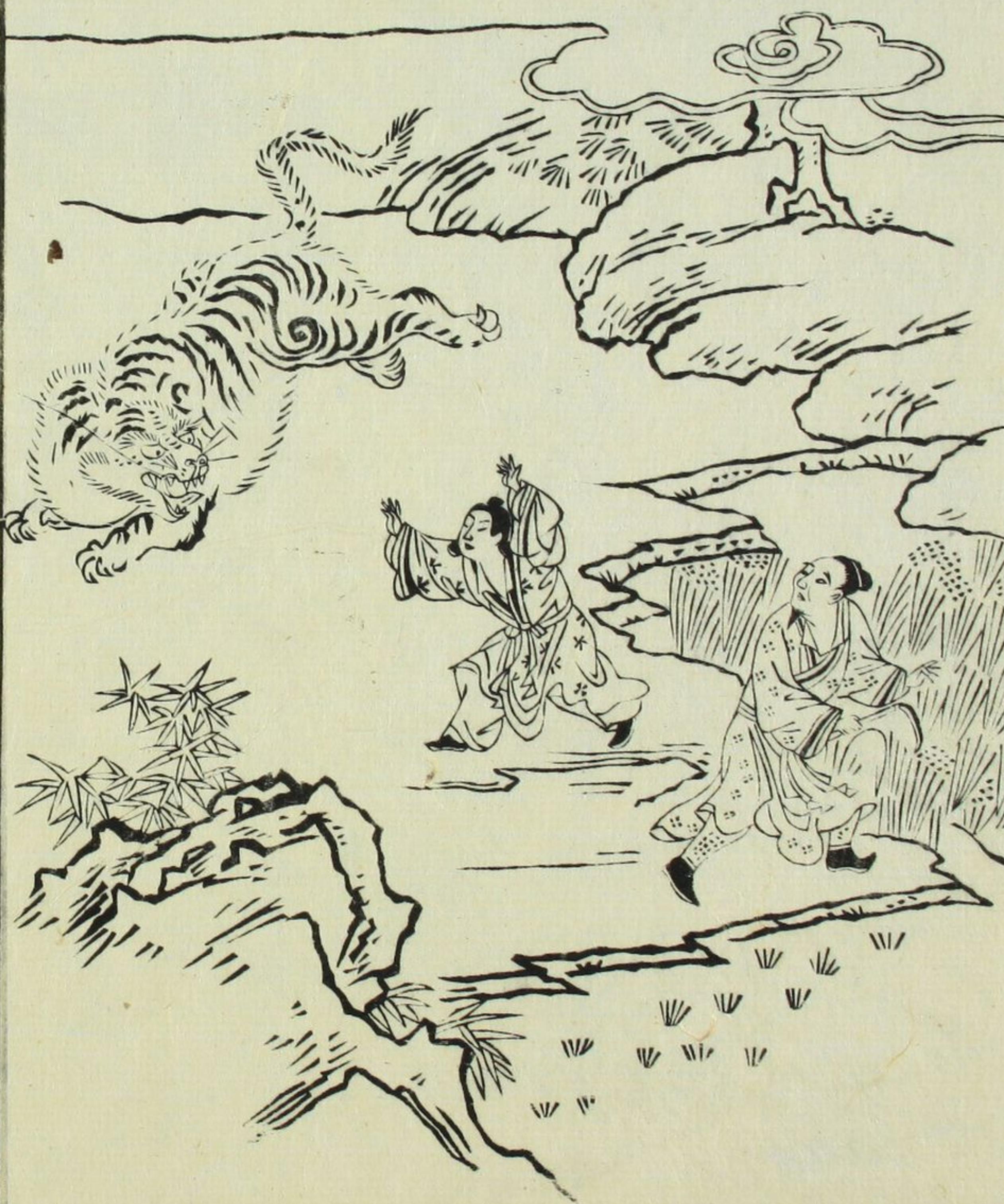
是より人のひとめれ又毋よなありしゆりゆともあり  
すれづら小手明傷の又より歎のゆちもがくわくも  
渾のほすくじとよ絶景と不者あり。若文宣帝はけよ淳于  
公亦久重よしありてのうるがわやまくもく死飛よらし  
ふるつよりぬそのぶひとあめんわりてちりく。すぐよ  
くらくゆくとよあくきのとわくばかりもくゆもだりと  
よくよくよよくとよあくよびく。ざくじもくもくわく  
とくふくじとよくとよあくよびく。ざくじもくもくわく

をうりきらうとすて。かくとあらへまきくはくく文  
とあらへく。長安の都より。文すてよ。こめれり。ば絶景も  
づく。アみと。りげく。なげまへ。ひる。度の。どく。文齊の。因よ。は  
ワ。は。ま。や。い。ま。よ。と。に。ほ。ま。れ。い。ひ。く。が。か。り。は。ざ。く。ま。の。も。り。  
か。は。わ。う。べ。と。う。と。た。り。お。ま。れ。お。ま。り。の。ハ。て。ひ。ん。く。人  
ま。れ。お。り。の。ハ。て。び。と。と。後。お。ま。り。と。く。と。ま。う。う。  
た。め。く。す。れ。と。そ。の。ふ。よ。う。前。う。し。ね。う。く。と。か。れ。じ。ぐ。  
と。め。く。す。れ。と。そ。の。ふ。よ。う。前。う。し。ね。う。く。と。か。れ。じ。ぐ。  
て。あ。く。と。と。ア。お。も。と。と。帝。三。く。あ。れ。で。ア。と。あ。の。と  
と。く。り。と。と。ぬ。く。わ。く。ま。を。あ。い。く。じ。文。う。と。ど。と。ゆ。く。さ。ま。  
ま。く。三。く。下。よ。み。と。せ。り。て。死。犯。肉刑の。は。と。バ。と。し。く。ゆ。  
され。よ。く。り。絶。景。が。あ。と。と。系。脣。画。と。う。と。う。て。文。が。死。犯。と。あ  
す。く。の。ふ。わ。べ。と。れ。よ。り。て。万。民。の。よ。す。く。も。あ。ア。往。く。に  
政。の。と。ひ。う。が。の。な。行。れ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
通。の。曹。城。は。お。も。と。と。里。ら。と。と。ひ。の。お。も。く。み。が  
お。も。お。も。う。と。と。う。と。と。う。と。と。う。と。と。う。と。と。う。  
ひ。の。と。と。よ。と。と。ん。と。と。曹。城。お。も。う。と。と。う。と。と。う。と。と。う。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

むかくとてとよひをよきわ。ご自あつてへら。又がからひとびと  
みよしにあそりまくと里人きのふうととあくねじじうさ  
かとどり。ちもあけり。曹娥はうたにすりとやうのねふせ。  
何ぐ碑とそらとそのこととあらへうととそく。だりま  
つりしきり碑のえとはの名人をくわんじ。曹娥は碑とぞ  
せよひつゝあれ

唐の楊杏は農家のじとめたり。又と楊豐とつぶすと、又とこ  
りと田とくらむる。又虎をとくらむる。とあく。すの父とくら  
むる。楊杏とうべがりければ。すみとくらむる。びからて虎へ  
うぶすとくらむる。おとくらむる。そのかうのゆとあくよ林れら





ひやちひきん虎がぞれてよげたりさて又はなとくりふうり  
そひちぬくらべてよおたゞかどもくわうふの里よもよ  
とくとくお行とあつてやむとくや  
えの店主氏がじとをありこまも農夫のみなり文左衛門  
とくともく家をりけりとよ窮よどきとくりじとくにハ内  
よゐきちふえぐよづれとくよちどくとくとくとくく  
御いわよしおとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
らよえぐすくめのくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
らとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

宗の慶氏（スミ）何（ナニ）と云ひやふかひともあり。年（タメ）それより  
その後（アフタ）りよ一揆（イケイ）れつてのちのあらわたちく俄（アマツチ）ア里（アリ）る  
さうしりうばくくわくしてまじひきりばじともうけきて  
いもくぐくよんとすもしもやこととよのうふくまくか  
しヨゴとくとすでよのうまうとすがくとなくゆのふ  
かきひきとくえとくはざとく、あそとくじともすと  
あくあめとくへくひとくおねがりくちお軍（シテ）よけくゆく  
らきん父兄（ハクヨウ）がいのちよあふくをりくよだすとく  
おほんも蓋（カバ）かにほ半（ハーフ）なよどとひきれじだかもとと  
じとあとくとて父兄（ハクヨウ）とゆくしきわ、ひとくわげのく  
父兄（ハクヨウ）よひひてよゆう、され、まうりの軍（シテ）よくよまうすと  
じほくくくとくのくわくわくんづるとくよけたぶがれ  
となくあてばくで取り、もうあがりゆくもどもよきくひて、  
おのこのゆきけろがどあらぬむうとく、ひくわぐりてお  
とくびじくくぞなりぬくれわるとくわきくれどくさ  
じくふうりえどすとくよきりええの季系文（ハセムカ）あれ  
徐氏（スミ）名（メイ）い新季（シンキ）、うにゆくのたよびりうすよ宗の文  
天祥（テンショウ）うかとすてひ筋（スジ）まざれどく、どくれく神（ジン）とあ  
一きりあくとくみのくられはひとくそくの文よとくひち  
か山中よくまうりとくぬまうてとくさんくられ

新妻たゞけまくとれは又をりまざあふくとえとたゞけあ  
あててひづれど、又とゆうて新妻とゆく新妻のむそ  
うふ丈よづれといふく戎死ぬとぞやめとくやどともよ  
りゆぬよきとくい、植林宿とふすとくつすよだとく  
うりあくすとくちうしてむろりあらがれよくまつやく  
た植林の宿れりのあらとそがくもとくまつやく  
さかとくとくとくありされらえとくの、ぬれくとくわよ  
らきづくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

漢の趙嫁とくまわう。その丈らとくのあよううれしがり  
二ノうりけりがくふ病一てあよえがくのんぐくとく  
うまくおのとよああおもとくとく。うはよ趙嫁ひくり  
クオよのとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

趙娘とうりふらうまくいに趙娘がいふ。うきとくわくあ  
のつみかりうへん。居てとがおよめ。とく義なり。つとくろて  
くくくくも。ゆきとくわづか。どくわななり。おとくとくうに  
やくはとほきんやうて。おとくくわくこくわくわくげばせの  
おうたね。おひくゆうれ。おちうつまきのあよもよ。あが  
ゆくしめぐれ。あをとあがけくとく。

ス吉の玉座と。よりのじとあひ。くらうすよくうひ  
あくと。あくと。あくと。あくと。又ハ楊川のあくと。梅芳と  
おきびと。おきびと。ありと。おきびと。おきびと。おき  
さす。おきびと。梅芳と。う。づくと。おきと。おきと。  
おきと。う。づくと。おきと。おきと。

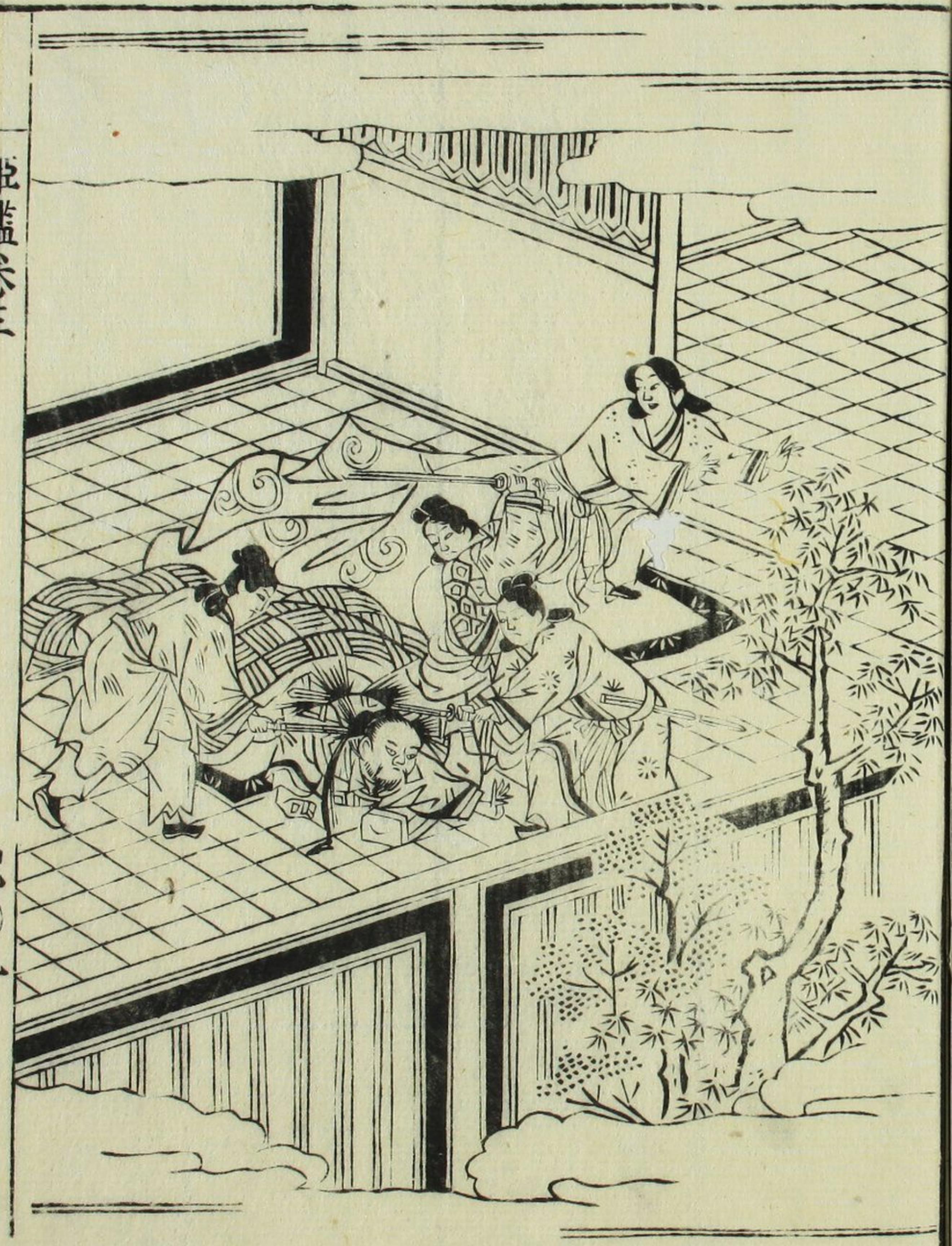
きうれど。あうやのくと。よあがれ。梅芳が國よみのびりて。  
うらげうが。ひなくうらうやまりて。う。と。う。と。梅芳が  
う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。  
う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。

う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。

隋のとく玉舞と。お若きうぎの又と。おうきの。まぬくと  
ふくわくと。お若きうぎの又と。おうきの。まぬくと。  
あり玉舞と。玉舞と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。  
う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。  
う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。

う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。う。と。

毛せざりうき。年もかくかく取てひきの縁とてづあ  
うべとへるはれをまかだわる月よりとふと  
ちうあてくまよかくかく取てひきの縁とてづあ  
えのあらじいとむとむとむとひくとくとくと  
えむかくかくとくとくとくとくとくとくとくと  
せよとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
うとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
えとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
すとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
らしてありひりうきのまゆとちりゆうしりゆうと  
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと



又れどもまづてくじまとつあつてはめよまうとよアツリ  
てくづつとくらひくに人のじとあづびとくらひく  
らひくがとそのふとくらひくとくのがりよあんとあづひよく  
そひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
一色とくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
なみとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
タセよみのとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
ヒトヒトとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
のとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
おおたかとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
くらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
はくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
その花とくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
かくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
ふたはくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
ざくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく  
新ひくじとくらひくとくらひくとくらひくとくらひくとくらひく

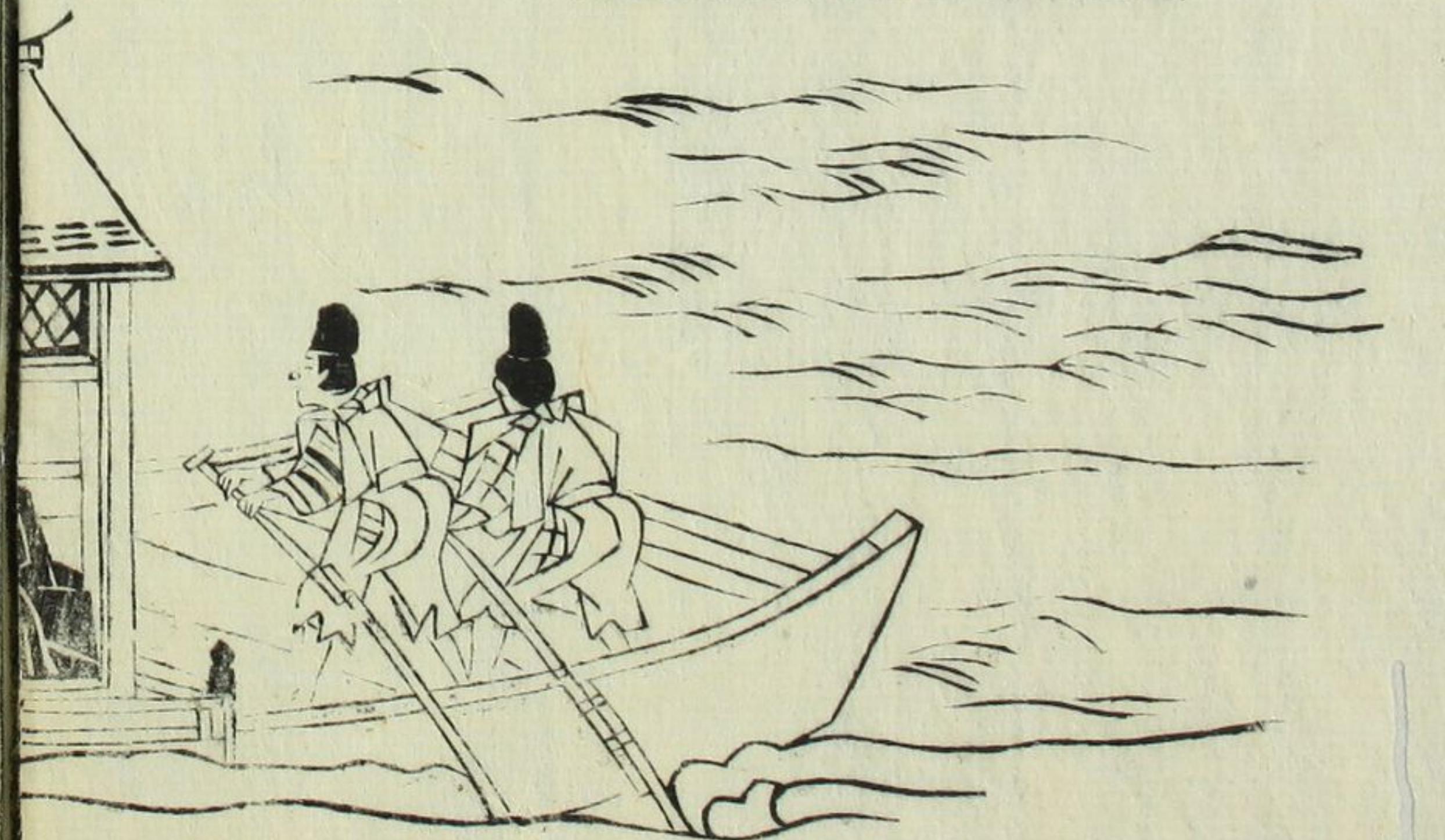
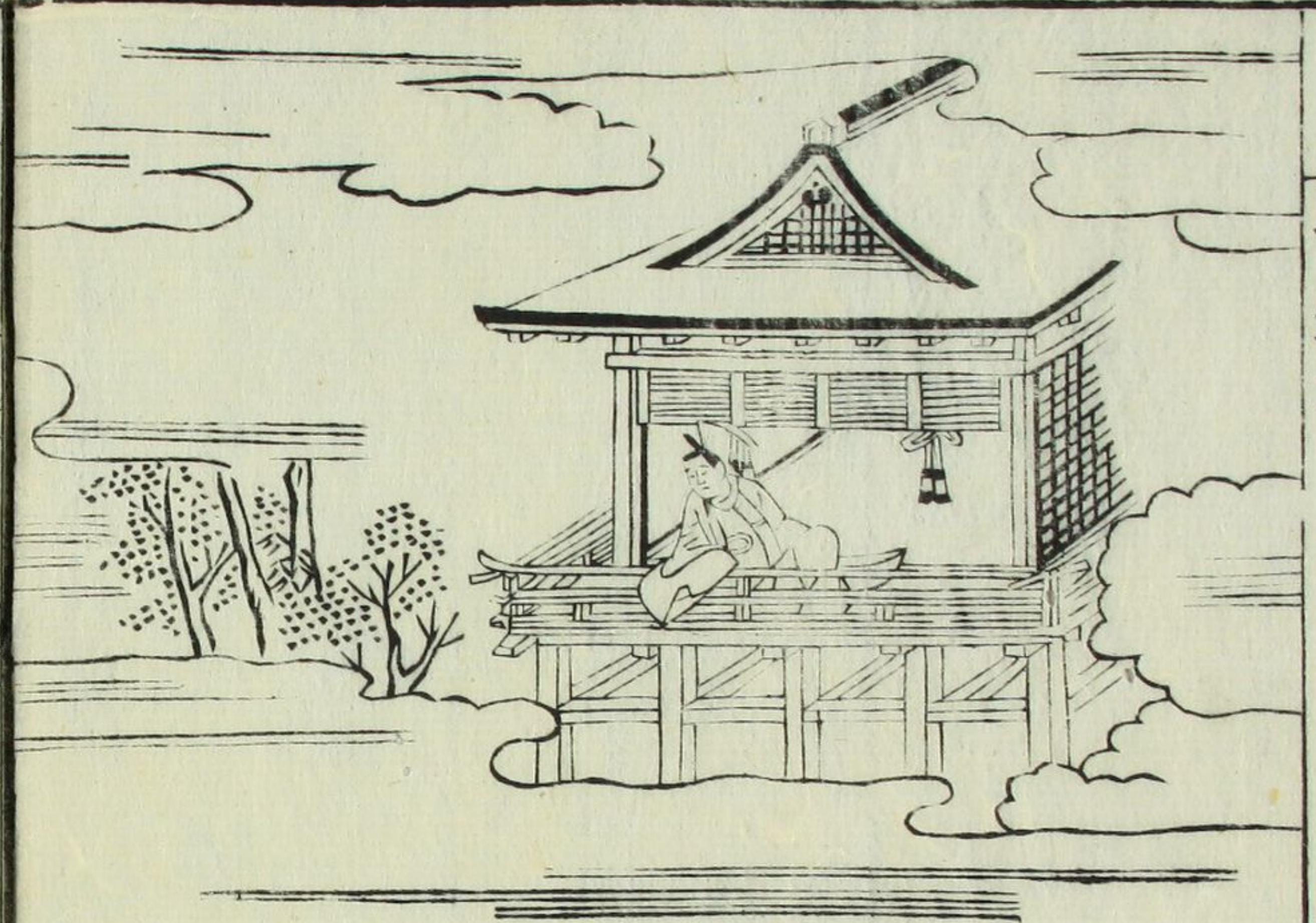
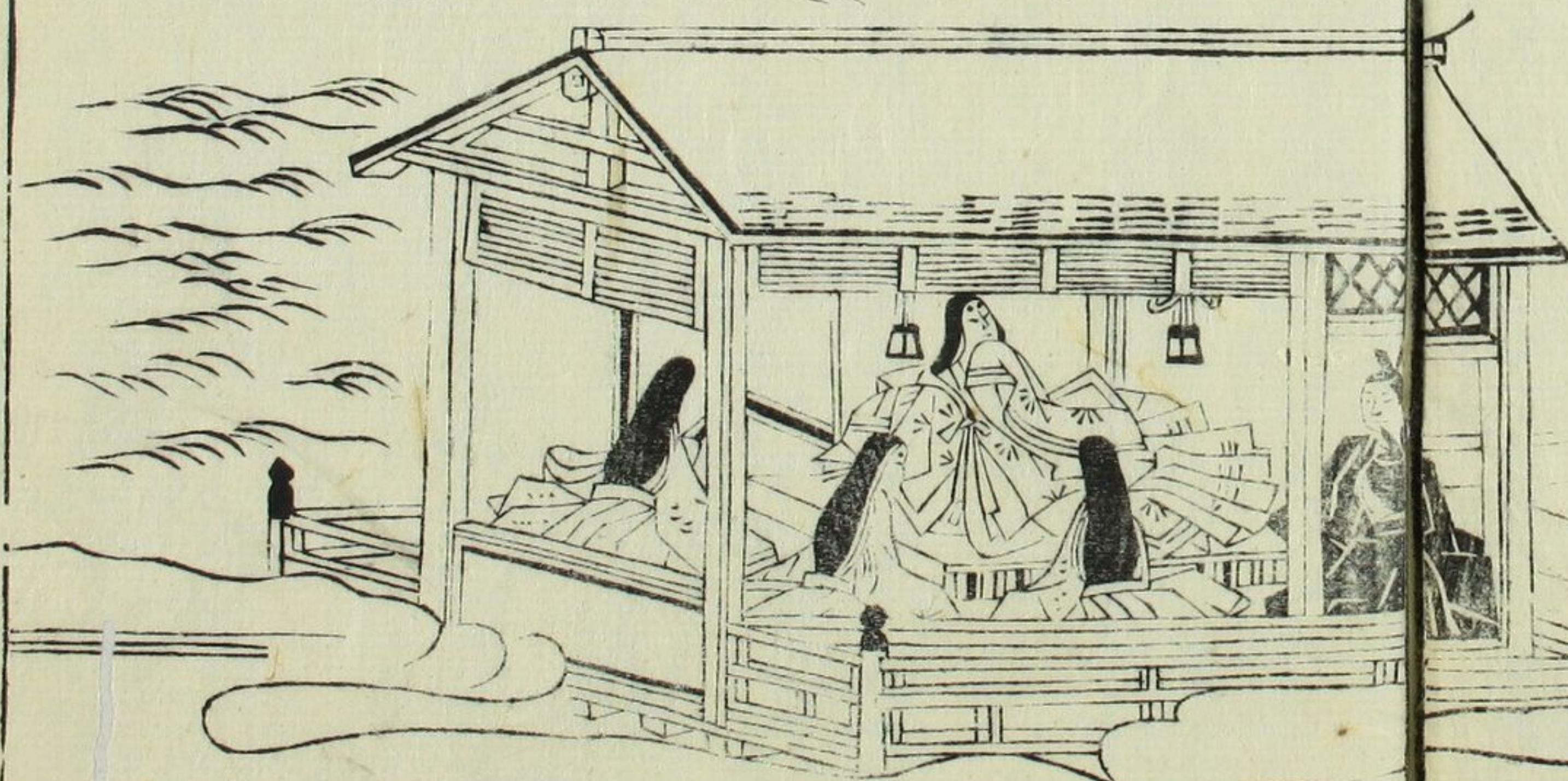
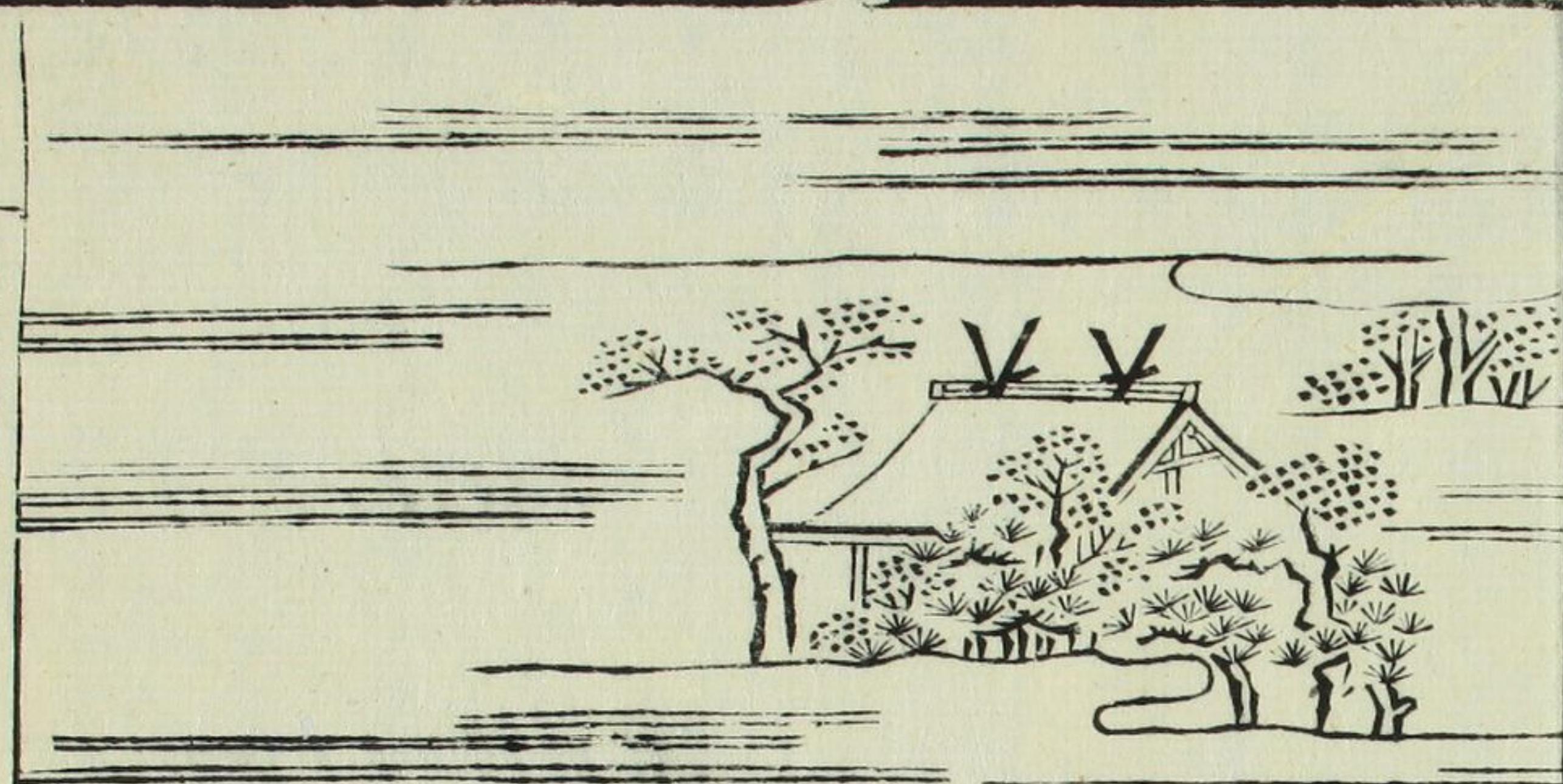
うりきとくもあらかじめおもひだすとおもひて  
かくえつをそのなりすまへるが、あやうにされも參れ  
のゆことよこゆふたりて神力の冥加ありうるやうなり  
漫のばく崖代ニ義とひきは隣崖の縣れつと稱すのひ  
まもとさの縁ゆといへんとそちひてもあり、次に方ぬ  
りくれば、あるひつともくらすよしんとく隣崖の面海の  
ほりみて寘崖のむかはれなり。まのほ珠とよきてはういと  
おきのあきだよろべて、かよ母珠崖とぞらむみへうけ  
さりし珠とづく財よみびてうなすてうろあうと年ねによ  
なみあくけりが珠のうへうふくとくとて母がむせられ  
間よどきとくもと人をば母子のあひて養をうぐり  
かづうが、圓珠マキラよみきくは珠マジカよアホアルトガムキマレ  
あどまんくね、寶珠とあひてうぐりや、それでたはれいひ、  
あんゆうりひとと、とくまちくられとくまちくられ  
じとあうたまやうりけりが經母よつとれんとくわく  
その令ようりをひきはすまく、我らの花とわくまつとも  
圓珠ようかとくはうりふとくひきはめぐすく、我らの花とわくまつとも  
くらげあうりよかくして母うきりくすく、我らの花とわくまつとも  
えバ母うきてばうりじくあうりくすく、我らの花とわくまつとも  
おの絶うりばうそくはゆくまちくしてうらじやくくふくふく

おとすてしもとひでどもひづかうよりすまつらべ  
いふくゆてよむじとあがむとてよみとひの珠ハ風とがひらめく  
そそりぬるよもとひとひづかうとてやうにまご  
してほくよまくはひつとたげきの中れがくよあされ  
こひのととひづかうとてやうにまごくよあされ  
よくわゆり。我そな飛とあとととひづかうとて  
びひくやまひのとく。うしがちがむとくを食と母よゆづらえ  
そそくはくとくありとくおとく。かくとくとくとく  
さくとくとくとくとく。我そなの母ハくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとく。おとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくの神とちりなはれ。圓ちもももとうかぐくくく  
ゆく。いとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

まよむくよきの花よもじうきよめでとあざわらひとふくいと  
さくさんよ。すよじとくまをみくが欲すとすかわ義（ヨシ）いともが欲  
くる不なり。二の門のえくへとくはまどすくとくとく  
じゆのとくに。生れそまめ林（リム）ぐりく。元氣もあまのあくじ  
ぐくとくわくとくほくとくつゆよがれとく。ぬとくとくれとくとく  
とくとくねのせとくとくとくとくとくとくとくとく

室の朱塗（スルヤシ）とくとくあなが。朱圓（スルカクシ）とくとくのじとくとくわと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

まよはきぬの足姫とひけく。無神とぞれ妃がり。  
あみやれ。那波ノ水よもやとありて。たゞかよのび  
せなみひとと海山さむあき。足姫はよほしきわが。あみ  
がたくさうかげつとみややゆ。足姫はよほしきわが。あみ  
まよはきぬの足姫とひけく。無神とぞれ妃がり。  
あみやれ。那波ノ水よもやとありて。たゞかよのび  
せなみひとと海山さむあき。足姫はよほしきわが。あみ  
がたくさうかげつとみややゆ。足姫はよほしきわが。あみ  
まよはきぬの足姫とひけく。無神とぞれ妃がり。  
あみやれ。那波ノ水よもやとありて。たゞかよのび  
せなみひとと海山さむあき。足姫はよほしきわが。あみ  
がたくさうかげつとみややゆ。足姫はよほしきわが。あみ  
まよはきぬの足姫とひけく。無神とぞれ妃がり。  
あみやれ。那波ノ水よもやとありて。たゞかよのび  
せなみひとと海山さむあき。足姫はよほしきわが。あみ  
がたくさうかげつとみややゆ。足姫はよほしきわが。あみ  
まよはきぬの足姫とひけく。無神とぞれ妃がり。



ひきとあくとくび。食されしむかづかふつもと。一へぐらいたがふを  
かぬてのくわすよあく。もよわくれなふとみとあうと  
さめまりててもくとくをさうひくろかん

じく名徳を乞の内は。山田お大臣。萬代石川磨乃じとあ送嫁  
とひきとく。智元をいざとを大きとよだ。けの妃。そばがえ

わくと。ざり。五事なり。大臣のとうされがくと。日向の大臣を  
まよ遊して。まくらまくんはうどとまく。やうべ。まゆう  
あひとあひてみて日向をみての候として。わ。しきる。  
されどあたへて。まくらまくんはうどとあひて。おのの山田  
ちよゆき。ひのきの妻。ひよりとくじとく。今とくへ

をとて。おながりとくと。殉ひくとくとくのかり。日向をつゝ  
とぬくちとく。すな。二田地とくとくのよだ。のくとく。さ  
きれぞ。極き力とぬくとく。じと。極き。ちと。ぬくとくんでくと  
えく。そのうち大にれ左貞のゆう。あくとくとく。ばとく  
あくとく。ひとく。ひとく。ひとく。ひとく。ひとく。ひとく。ひとく  
あくとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく  
おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく  
おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく。おとく

すりきしむじくもとひまきをもひくよと  
かがくよへれのふ路徹へもとむれよ傷へう  
林とまきうきけとれまくさくああみせばやと  
えよぐまくがりとれうがすとをきひとあり妃の  
あやうおとひもとひはうよとれゆきとひとあり妃の  
まくあくねをうだ入のあひくまくわうねぐくまくを  
がくまくとくの縁とひうひ妃の縁をうげきとくすれ  
あくいだもうつよ月向と拂うちうだらわだもとをあ上  
ぞうりうりけふいから左敷のとんび

ちる連波自室をとくへ附る拂と縣政の人なりたこと

てねうひとてまとあたがひのえあひでまとてめぬ  
うりよくねはづりと墓のほくりよしとひのくづひよ無念  
もくり春氣れでれうむとたゆくとくとくとくとくとくの  
しょりて拂うりああたががくくとくとくとくとくの  
門よもよもとひうり林浦天をのなほのゆうりづくへ天  
うトよみとめりととまよ順孫英丈節婦とくびとくとくと  
ちうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
て祖とゆくとゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
とあもあもゆうかりとくとくの強引とわうりとせのすりとく  
かうりとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

又班波於安良賣ハ後前の世人人なり。之れも其より後、之を  
ちく毋よ後、之をもあらば、其後とぞりかくは、安良賣が、之の  
ぬくふく、之をて、之をつむぎ、あらゆる、十六年一月、  
家嫁取の太領か、正七佐祐良、妻となりた。是に秋也、と  
是の世とくまつて、やのめとをりうれば、之のまじめのあつ  
きを、之をかうかうて、之をうかうめのまじめとぞあり。天長也  
よすすりて、後二級とあり。之をかうかうめとぞあり。天長也  
りあぐ人のよすすりて、之をかうかうめとぞあり。天長也  
くくゆとぞりい。之をかうかうめとぞあり。天長也  
ちじゆくひは、之をかうかうめとぞあり。天長也

之をかうかうめとぞりい。之をかうかうめとぞりい。年月あり、  
どく見のかうかうめとぞりい。之をかうかうめとぞりい。之を  
わとくのまじめとぞりい。之をかうかうめとぞりい。之を  
えじあとのまじめとぞりい。之をかうかうめとぞりい。之を  
じけとぞりい。之をかうかうめとぞりい。之をかうかうめとぞりい。  
之をかうかうめとぞりい。之をかうかうめとぞりい。之を  
て、之をかうかうめとぞりい。之をかうかうめとぞりい。之を  
おぐりよのまじめとぞりい。之をかうかうめとぞりい。之を  
と、之をかうかうめとぞりい。

あらひれどもがくべるい紫苑とくにまつりの  
いりくといおもとの根やくつゆよじもとみわづとく  
いよくうえわくあくこまきよむづく

比賣體紀行卷第三

